

加藤建設が推進する環境配慮活動 “エコミーティング”

はじめに

わたしたち建設業は、人々が安心・安全かつ豊かな暮らしができるよう
河川や道路、公園などの“インフラ整備”を進めています。

・・・でも建設業って、環境破壊してるじゃないですか・・・

建設業のことをこんなイメージに思っている方々も少なくないと思います。

たしかに、山を削って道路や宅地を造成したり、海を埋め立てて土地を造成したり・・・
町の中で工事をすれば、騒音や振動、車の渋滞など・・・。

自然の生き物や地域の人々に迷惑をかけているかもしれません。

でも、私たち建設業はモノづくりのプロ集団!!

工事現場で環境や人に配慮したことを色々と考え実践することで、
生き物や人々に喜んでもらうことは出来るはずです。

そんな思いから始めたのが、(株)加藤建設のエコミーティングなのです。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



あいち生物多様性
優良認証企業



認知SDGs登録制度 AICHI SDGs PARTNERS
あいちSDGsパートナーズ



おおさか生物多様性
応援宣言登録企業

エコミーティングの目標

1

自然環境配慮

工事における自然環境
の保全と再生

2

地域住民配慮

地域にとって暮らし
やすい街づくり

3

コミュニティづくり

工事と地域との
つながり

この3つの目標のために、現場を確認し、様々なことをミーティングします。

エコミーティングの流れ

現場を訪問し、概要確認

- ・・・メンバーが受注現場を訪問し、工事概要を確認する。
※エコミーティングは職種を問わず会社全体で実施しています。

周辺状況の確認

- 1) 自然環境状況
- 2) 人の住環境状況
- 3) 要望に対する確認

- ・・・現場内や現場周辺の状況を確認し、
自然や周辺住民に対する影響を考える。
e x 自然) 生物への影響、河川への影響、など
住民) 騒音、振動、イメージアップPR、など



ミーティングの実施

- ・・・現場確認後、ミーティングを行い
意見のブラッシュアップを進める。



提案書の作成

- ・・・ミーティング内容を提案書にまとめる。

現場にて実施

- ・・・提案書のアイディアを現場にて実施する。
(要承認)

エコミーティングで自然環境の保全・再生を現場から着実に積み重ねることで、『ネイチャーポジティブ』の実現に貢献しています。

また、国際的な目標である『30by30』に呼应し、地域に根ざした保全活動を通じて自然共生社会の実現を目指しています。

自然環境配慮事例

生態調査および保護活動・外来種防除

様々な現場にて、生態調査及び保護活動や外来種防除を実施しています。
また、調査結果をポスターにて掲示し、地域の方と環境情報を共有しています。



野鳥調査の様子



植生調査の様子



環境掲示板



水路の生き物保護



外来種防除



ヨシ原の復元および希少種の保護

現場の玉石によりヨシの生育が妨げられていたので、設計変更にて玉石を撤去し護岸に活用。
施工から3年経過し、ヨシの繁茂がほぼ全域に拡大しました。



撤去前

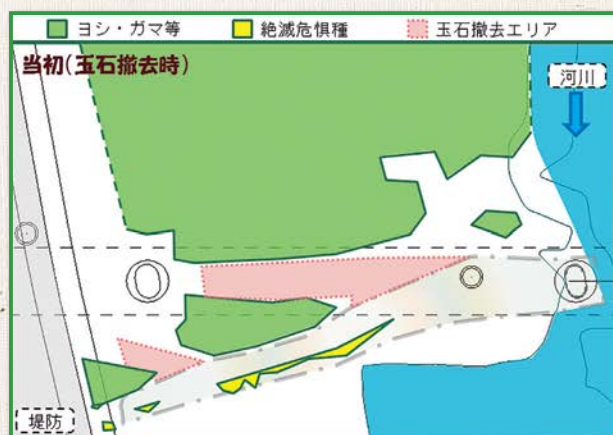


撤去後



3年後

また、現地調査で発見した絶滅危惧種のタコノアシも、繁茂エリアが順調に増加しています。



絶滅危惧種
タコノアシ

☀ エコミーティング 実施例 ☁

● 希少種の保護および設計変更 ●

地盤改良工事の対象地に市の天然記念物である『ヒメタイコウチ』が生息しているとの情報があり、『ヒメタイコウチ』の保護のため、現地調査・保護活動を実施しました。
また、生物多様性に湿地は重要なため、元請及び発注者に通水性能を有する地盤改良を提案。
設計変更協議を経て改良率50%にて施工を実施する事が出来ました。



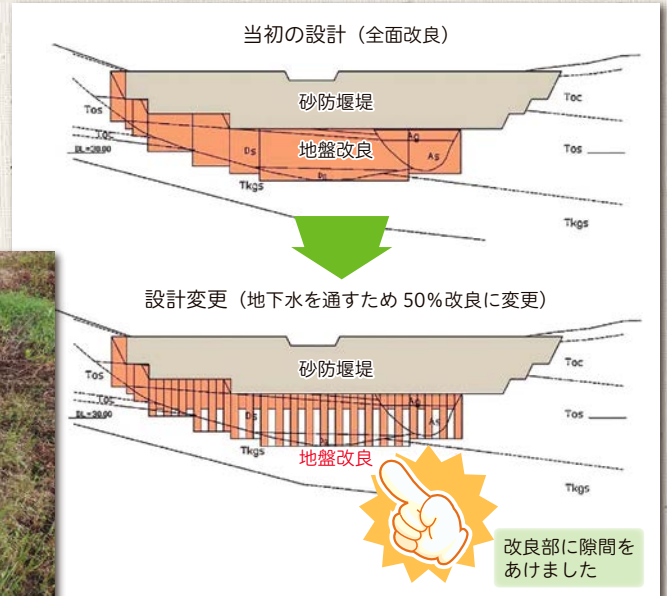
現地調査の様子



ヒメタイコウチ



保護地への放流



● 生態系ネットワークへの配慮 ●

工事対象地にて伐採の予定だった大きな『エノキ』の木。
でもエノキは、地域の鳥や昆虫にとって必要な木ですので、地域の環境を調査し、資料を制作し発注者に提案した結果、伐採を回避する事が出来ました。



エノキはシンボルツリーとなっています



現場のエノキ



提案した資料



私たちは、自然環境に配慮した提案を実施する為 **ビオトープ管理士** Biotope Planners and Builders の資格取得を推進しています。
現在では社内に200名以上の有資格者がおり、現場に応じた様々な提案をさせていただきます。

現場ビオトープの造成

高速道路工事にて現場内の水路を利用した簡易的なビオトープを造成、多様な生物を呼び込むことができました。
また、発注者からも高い評価をいただきました。



① 除草による流れの確保



② ワンドの造成



③ トンボの止まり木



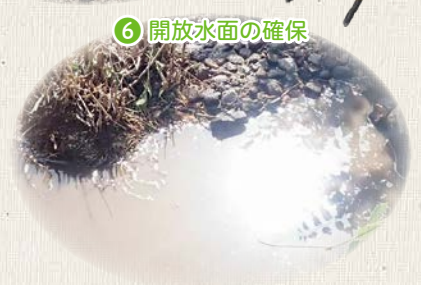
④ ヨシの刈り残し



⑤ 玉砂利による隠れ家の創出



⑥ 開放水面の確保



約1年4ヶ月モニタリングを続け、合計100種の生き物を確認できました。

中には希少な生き物も確認され、ビオトープを整備することで現場エリアの生物多様性向上に貢献できました。



希少植物の保全

河川の浚渫工事の現場にて、土砂の運搬ルートに繁茂していた希少な植物「カワラケツメイ」の保全活動を行いました。

カワラケツメイは秋に結実するマメ科植物で、種子採取が容易なことから、現場担当者を中心に種子採取を実施、工事終了後に現場に播種しました。



繁茂エリアをテープでマーキングして種子採取



黒く成熟した種のサヤ

希少野鳥の保護

大規模な地盤改良工事の現場にて、その地域では重要保護生物(環境省の絶滅危惧IB類相当)の野鳥「コチドリ」が営巣するため、卵が孵化し、巣立つまで見守りながら施工しました。



現場で営巣したコチドリ



シェルターを設置



孵化したひな鳥



巣立ちまで見守りながら施工

河口域での大規模生物保護活動

二級河川の河口域にて既設構造物の解体工事の際、鋼矢板で仕切り、水替えをするタイミングで大規模な生物保護活動を行いました。参加者は総勢10名以上。結果、ハゼやナマズを始め、300匹以上のフナ、モクズガニに至っては600匹以上と大量に在来種を捕獲、工事区画外へ放流しました。

また、環境省のレッドリストで絶滅危惧IB類に指定されているニホンウナギもたくさん保護することができました。



鋼矢板で仕切られた広い現場



社内で応援を募って多数で実施



保護したナマズ

地域住民配慮事例

現場の見える化・脱炭素化

住宅地での工事は、周辺住民の気持ちになって考えます。万能塀の一部をクリアタイプに変更し、現場の見える化を推進。黒鉛除去装置を機械に設置したり、ハイブリッド重機の使用や現場事務所のソーラー化など、脱炭素化にも注力しています。



現場の見える化



黒鉛除去装置



ハイブリッド重機の使用



現場トイレのソーラー化

オリジナル看板の製作・かわら版の配布

工事の内容や状況、私たちを知ってもらうために、わかりやすい説明看板を製作したり、かわら版を配布しています。



看板



かわら版

イルミネーション装飾

足場や構造物にイルミネーションを設置するなど、現場をPRしながら楽しんでもらえる工夫を行っています。



コミュニティづくり事例

地域イベント参加

看板やかわら版のお陰で、地域のお祭りなどに参加させていただくことも多くなりました。



カラーコーン輪投げ



バックホウ給すくい

現場見学会・職場体験の実施

工事に興味をもってもらうための見学会や地域の子供たちに建設業の魅力を伝えるために職場体験を実施しています。



測量体験

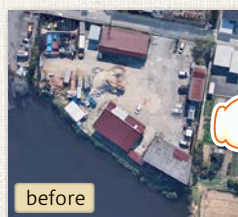


現場の見学

23号蒲郁バイパス工事（豊沢地区）
現場見学会

カトケンビオトープの造成・自然観察会の実施

もともと資材置き場だった場所に地域の方々が自然と触れ合える拠点としてビオトープを造成しました。地域の子供もたちに身近な自然の魅力を知ってもらう自然観察会の会場としても活用しています。



before



after



自然観察会

発注者・元請業者の皆様へ

このリーフレットは、エコミーティングとはどのような活動なのかの説明と今まで実施してきたエコミーティング事例の紹介となります。もし工事にて様々な提案要望がございましたら、弊社の営業もしくは工事担当者に一言お声掛けください。是非、私たちと一緒にエコミーティングをしましょう！

